

令和6年度 生成AI に起因するインターネット上の偽・誤情報等への対策技術に係る調査の請負 (実証事業)

音響透かしと音響フィンガープリントを用いた 偽・誤情報対策クラウドシステムの開発 成果報告書 概要版

2025年2月28日

エヴィクサー株式会社

実証番号06 エヴィクサー株式会社: R5補正 成果概要

主たる実証の成果

「音響透かしによる真正性保証・信頼性判断支援技術」、「音響フィンガープリントによるマスタDBを用いた真偽判断支援技術」、「音響フィンガープリントによる放送DBを用いた真偽判断支援技術」、「音響フィンガープリントによるパッシブな真偽判別支援技術」の4つの技術を内包したWEBシステムを構築した。

上記の偽・誤情報対策技術の開発と、その有効性の検証を行い、社会実装に向けたユーザビリティの高いシステムの設計、構築を行った。

再委託先のケーブルテレビ局にて、音響透かしを埋め込みと音響フィンガープリントのDB登録を行い、放送・配信を行った。

一般視聴者環境のスマートフォンで音響透かしと音響フィンガープリントによる検出が可能かどうかの検証ができた。

普及啓発に関して、テレビ放送局／放送スポンサー等にとっての導入インセンティブ検討、関係者へのヒアリングを行った。

開発した技術及びこれによるコンテンツの真偽検証の結果が、被害者による偽・誤情報に対する法的措置の支援という観点からも有用なものとなり得るかどうかについて、法的に必要な要件や手続に即して検討を行った。

今後の課題・展望等

- 令和6年度の開発で開拓した技術的課題の解決、性能向上
- 開発システムの提供形態、プライシングモデルの実証実験
- リードユーザーの獲得
 - テレビ／ラジオ放送局
 - 政府、地方自治体
 - YouTuberやVTuber等の動画配信者
 - 音楽団体
- 単なるライセンスモデルだけでなく、前年度までに検討した導入インセンティブを加味したビジネスモデルの検討
- 提供先の要望に応じたアルゴリズムのカスタマイズ
- 国際標準化を目指すために、標準開発組織（SDO）との連携検討、技術標準・ベストプラクティス開発に貢献
- 特許戦略の検討・実施
- 一般消費者が活用できるUI・UXを実現したサービス、アプリケーションの提供
- 本事業の推進が賛同機関の増加を促進
- 公的ファクトチェック機関にも導入アプローチを進める予定